



▲毎年のように発生する豪雨は、町内でも広範囲にわたって被害をもたらしている

特集

今の備えが「その時」を守る

いつ、どこで起きるか分からない災害。身を守るためには、日ごろの備えが重要です。今回の特集では、災害時にあわてず行動するために、私たち一人一人ができることを考えます。

問い合わせ 地域づくり課

全国各地で増えている災害。
カギになるのは「防災意識」

自然災害は、全国各地で毎年のように発生しています。昨年8月、九州北部は前線の停滞により記録的な大雨となり、県内各地で「観測史上1位」の降水量を観測。さまざまな場所で、河川の氾濫や土砂災害が発生しました。

また、近年では非常に強い雨を局地的に降らせる「線状降水帯」が頻繁に発生するなど、台風や豪雨による被害リスクは年々高まっています。

私たちの想像を超える力で、被害をもたらす自然災害。災害時に命を守る行動をとるためには、日

ごろから高い防災意識を持つておくことが大切です。

災害時の基本！
「自分の身は自分で守る」

災害への備えは、一人一人が取り組む「自助」、地域で助け合う「共助」、国や自治体が行う「公助」の3つに分けられます。

この内、防災の基本となるのは「自助」。自宅の備蓄品や安全状況を確認したり、災害時には早めに避難したりすることで、自分や家族の身の安全を守ることをいいます。

3ページでは「自助」の例を掲載しています。いざというときに適切な行動ができるように、備えを万全にしておきましょう。



今日から始めよう

備えの **ススメ**

私たちを守る「日ごろの備え」。豪雨や地震などの災害を意識した食料品・日用品の備蓄方法のほか、自宅を点検するときのポイントなどを紹介します。

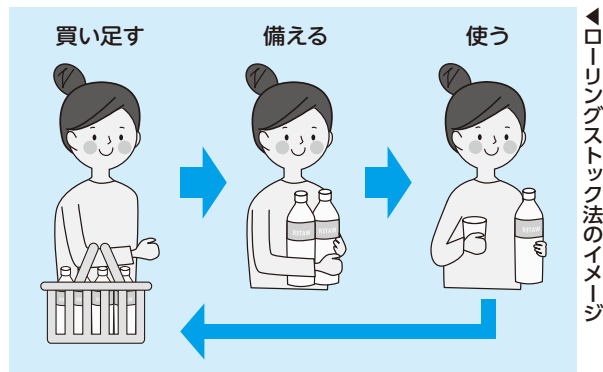
食料・日用品は **備蓄** 「余裕」を持って備えよう

電気やガス、水道などのライフラインが止まったときなどに必要な「備蓄品」。災害の規模によって違いはありますが、最低でも3日分～1週間分は備えておくことが望ましいといわれています。

【備蓄品の例】 ●飲料水（1人1日3L程度） ●非常食 ●燃料（卓上コンロ、ガスボンベなど） ●生活用水（浴槽や洗濯機にためておく）

非常食を活用&備蓄！「ローリングストック法」

備蓄した常温保存の食材・加工品（缶詰やインスタント食品など）を定期的に消費し、その分を買い足すことで、常に一定量の非常食を備蓄できます。



Check!

高めよう、家庭での「防災意識」

災害への備えとして、備蓄品（モノ）はもちろん重要ですが、「自分たちの命は自分たちで守る」という意識も日ごろから持つておく必要があります。例えば、「安否確認の方法」。災害時に家族や身近な人が一緒にいるとは限りません。安否確認の手段や集合場所などを事前に話し合っておきましょう。



家具の転倒などの点検 「危険」をチェック！

東日本大震災や熊本地震などでは、家具の下敷きになって多くの人が大けがを負うなどの被害に遭いました。

地震の発生時は「家具は必ず倒れるもの」と考えて、転倒を防止しましょう。

【家具の転倒を防ぐ対策の例】

- 金具などを使って、家具を壁に固定する
- 寝室や子ども部屋には、背の高い家具をなるべく置かない
- 倒れたときに出入り口をふさがないように、家具の向きや配置を工夫する



▲家具と天井の距離が近いときは「突っ張り棒」での固定も転倒防止に効果的

災害の影響で携帯電話がつながりにくいときは、以下のサービスが利用できます。

- **災害用伝言ダイヤル** 局番なしの「171」に電話を掛けると伝言を録音でき、自分の電話番号を知っている人が伝言を再生できます。
- **災害用伝言板** 携帯電話などからインターネットを使って書き込んだ内容を、自分の電話番号を知っている人が閲覧できます。

知っておこう「情報の集め方」

災害が起きると、気象情報や避難情報、警戒レベルなどのさまざまな情報が発信されます。

近ごろはスマートフォンの普及率が高まり、多くの人がインターネットから情報を得られるようになりました。しかし、スマートフォンだけを持っていても、必要な情報のすべてを収集できるとは限りません。

例えば、「スマートフォンを持ってさえいれば大丈夫」と思っている

ても、災害時に充電が切れていると、重要な情報を見逃してしまうこともあります。一方、テレビやラジオからの情報のみを頼ってしまうと、外出先で情報を得づらいついたことも考えられます。

重要なポイントは「複数の情報収集手段を持っておくこと」。さまざまな媒体を活用し、国や自治体からの情報をいつでもチェックできるようにしておきましょう。

「でんたつくん」の戸別受信機を活用しよう

町では、「でんたつくん」の戸別

受信機を全戸に無償で貸与し、さまざまな情報を発信しています。災害時には、「でんたつくん」を使って町から避難情報や避難所の開設情報、公共施設の休館情報などを放送します。受信状態を事前に確認しておきましょう。操作方法などは町公式ホームページを見てください。



▲「でんたつくん」の戸別受信機

●岡垣町総合防災マップ

町内の災害危険区域などを確認できる冊子です。各家庭に配布しているほか、町公式ホームページにも掲載しています。



●防災メールまもるくん

福岡県が防災気象情報（地震・津波・台風・大雨など）や避難情報を発信するメールサービスです。



●気象庁ホームページ

雨雲の動きのほか、警報が発表される可能性がある現象や時間帯を5日先まで予測した「早期注意情報」を確認できます。



●テレビのデータ放送

リモコンのdボタンを押すと「データ放送」を視聴でき、最新の気象情報・避難情報を確認できます。※放送局によって、確認できる情報は異なります。

●岡垣町公式ホームページ・LINE・Facebook

避難情報のほか、公共施設の休館情報などを発信しています。また、ホームページのトップ画面では緊急情報も確認できます。



「警戒レベル4」までに

全員避難 してください

町が発表する避難情報や気象庁が発表する防災気象情報は、5段階の警戒レベルを使って発信します。

- 警戒レベル4「避難指示」が発令されたら、危険な場所から全員避難してください。
- 警戒レベル3「高齢者等避難」が発令されたら、避難に時間がかかる人とその支援者は避難。その他の人も、危険を感じたら自主的に避難してください。

ポイント



レベル	避難行動など
5	命を守る最善の行動
4	全員避難
3	高齢者などは避難
2	避難行動の確認
1	心構えを高める



Check!

避難先の検討や感染症対策グッズの準備を

感染リスクに注意して 避難しましょう

避難所に多くの人が集まると、新型コロナウイルスなどへの感染リスクが高まる恐れがあります。避難するときは、次のポイントに注意してください。

1 在宅避難

自宅で安全を確保できるときは、自宅に留まることも検討しましょう。



2 分散避難

親戚や知人の家、ホテルなど、避難所以外への避難も検討しましょう。



3 マスクなどの準備

避難所に行くときは、マスクや消毒液、体温計などの感染症対策グッズを持っていきましょう。



「総合防災マップ」を活用しよう

町が配布している「岡垣町総合防災マップ」には、災害への事前の備えに役立つ情報のほか、災害時の浸水想定などの指標や避難先などの情報を掲載しています。



今後の災害に備えるために

町では、災害に備えた防災訓練を毎年行っています。今年も、災害が発生したときの対応や関係機関との連携方法を確認するため、災害対策本部の運営訓練を行いました。訓練では、昨年7月に設置した「河川等監視システム」など

身の回りにある「浸水想定区域」や「土砂災害警戒区域」などの危険な場所を事前に把握しておきましょう。また、マップを参考に安全な避難経路・避難先を決め、複数の候補を確保しておくこと、状況に応じて行動しやすくなります。



▲河川等監視システムの表示画面。町内を流れる「矢矧川・汐入川・野間川・篠間川・戸切川」の河川水位や、道路の冠水状況を確認するためにカメラを設置している

も活用。道路の冠水などを想定した、実践的な訓練を行いました。今後も、災害によるさまざまな状況変化に対応できるように訓練を続けていきます。

町内の4つの小規模河川の

洪水浸水想定区域が新たに指定されます

近年の大雨や短時間強雨の発生頻度を踏まえ、これまで作成されていなかった小規模河川の洪水浸水想定区域図を、県が近日中に公表する予定です。

岡垣町では、すでに公表されている矢矧川に加え、汐入川・野間川・篠間川・戸切川に関する情報が新たに公表されます。詳しくは、公表後に県のホームページをご覧ください。

